

保護者の皆様

吹田市立吹田第六小学校  
校長 田淵 久美子

### 令和2年度「学校教育診断アンケート」結果分析について

梅花の候、皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、12月に実施しました学校教育診断アンケートにつきまして、ご報告させていただきます。今年度はコロナ禍により、たくさんの様々な行事の制限を余儀なくされ、保護者の皆様にご来校いただく機会がほとんどありませんでしたが、93%の回答をいただきました。昨年度の高回答率(89%)よりさらに上回って回答いただいたこと、嬉しく思います。感謝申し上げます。



今年度もご報告の前に、嬉しい出来事をお伝えしたいと思います。

2学期のことになります。学校に見知らぬ女性から1本の電話がかかりました「吹田駅までの道がわからず、通りがかりの女の子数人に教えてもらおうと、声をかけると、初めての人にはきっとわかりにくいだらうと、駅まで案内してくれました。本当にやさしく、親切な子たちで助かりました。お礼だけでもお伝えしたくて。」

女性の話を聞いて少しヒヤッとしたのは確かです。しかし、子どもたちはきっと、数人でいたことや女性が悪い人ではなさそうだと、見極めて案内したのだらうと思います。すべての大人が良い人ではないと教えなくていけない残念な社会の一面もありますが、子どもたちの優しさに拍手を送りたいと思います。

以下に集計・分析結果をお伝えするとともに、いただきました貴重なご意見を真摯にうけとめ、次年度への改善のため、教職員一同さらなる努力を積んでまいりたいと存じます。

#### 【回答の仕方】

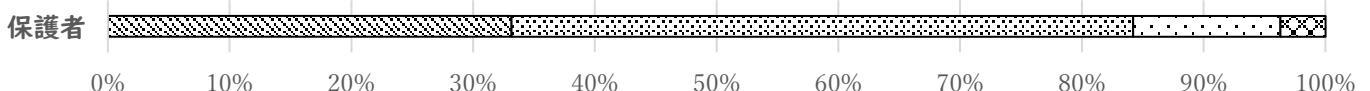
低学年(1年2年3年)の回答は2択  はい  いいえ

高学年(4年5年6年)と保護者の回答は4択

 そう思う  どちらかと言えばそう思う  どちらかと言えばそう思わない  そう思わない

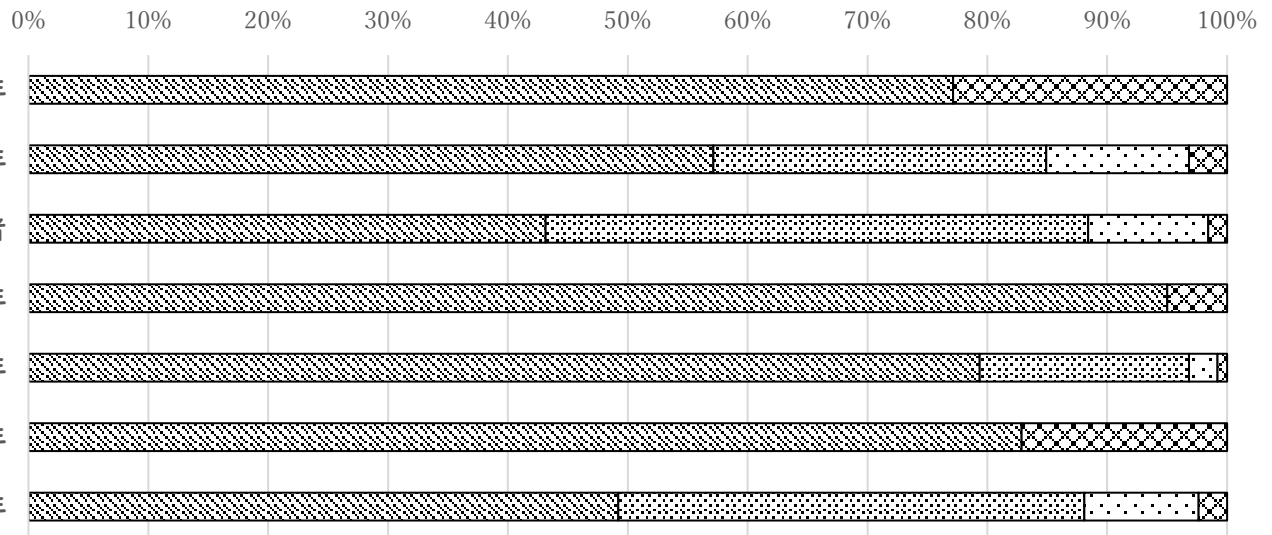
(保) 学校教育目標や教育方針を知っている。

(HPにグランドデザインを掲載しています。)



昨年度は78%の今年度は84%の肯定的回答をいただきました。昨年度に引き続き、今年度も多様性教育を重点取組に教育活動を行ってきました。今後も教職員一同、教育目標の実現に向けて努力を重ねてまいります。

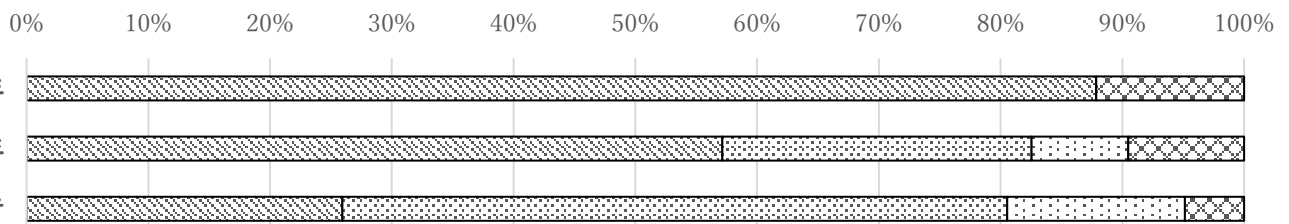
- 1 (低) 学校へ行くのが楽しい。
- 1 (高) 学校へ行くのが楽しい。
- (保) 子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。
- 2 (低) 友だちといっしょに楽しく遊んでいる。
- 2 (高) 友だちといっしょに楽しく遊んでいる。
- 3 (低) 先生や友だちや来校者にあいさつをしている。
- 3 (高) 先生や友だちや来校者にあいさつをしている。



8割前後の子どもたちが「学校へ行くのが楽しい」と回答し、保護者の皆様からは9割弱同様の回答をいただきました。また9.5割以上の子どもたちが「友だちといっしょに楽しく遊んでいる」と回答しています。今後もさらに「楽しい学校」づくりをめざします。

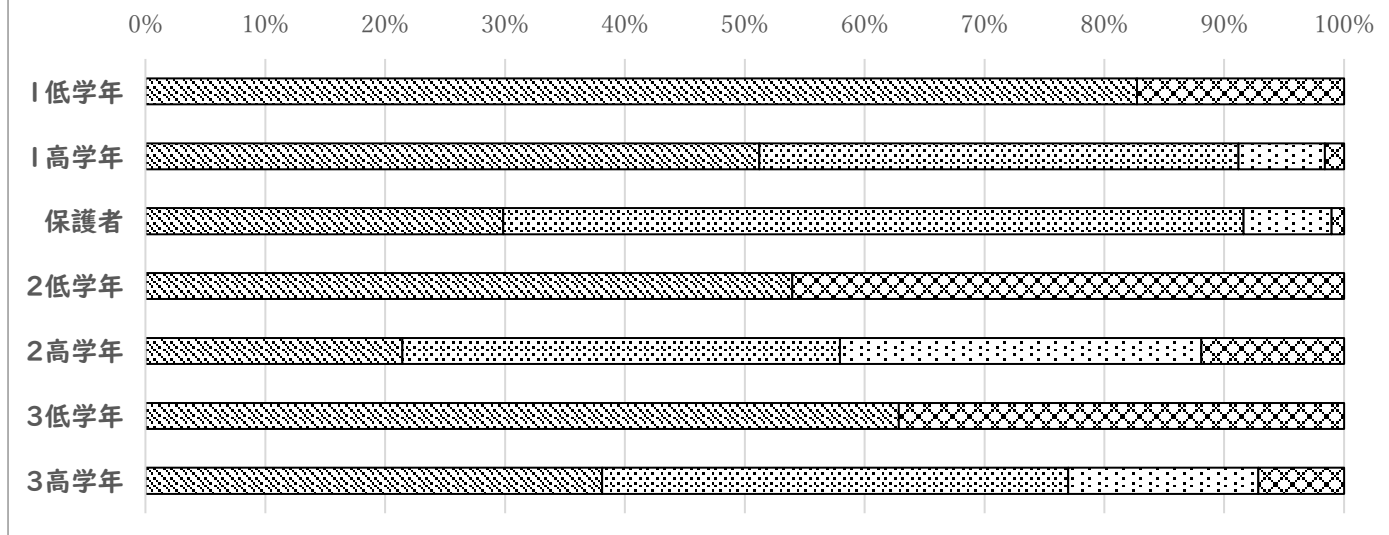
「あいさつ」のできる子どもが昨年度にくらべ、ずいぶん増え、概ね達成できました。次のステップは「自分からあいさつできる子どもたちの育成」です。生徒指導（生活指導）のキーワードである「いつでも、どこでも、だれとでも」を意識させていきます。

- (低) 吹六ミニコンサート、吹六オリンピックなどの学校行事は楽しい。
- (高) 吹六ミニコンサート、吹六オリンピックなどの学校行事は楽しい。
- (保) 子どもは特別活動を通して、自主性や実践力が育ってきている。
- (今年度はコロナ禍により児童会行事、校外学習は実施していません)



子どもたちにとって学校行事は特別なものの1つです。来年度は「新しい生活様式」の中で工夫を凝らして実施していきたいと考えています。

- 1 (低) 学校の勉強はわかりやすい。
- 1 (高) 先生は教え方にいろいろな工夫をしているので授業がわかりやすい。
- (保) 教職員は分かりやすい授業・工夫された授業づくりに努めている。
- 2 (低) 授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある。
- 2 (高) 授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある。
- 3 (低) 授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。
- 3 (高) 授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。



低学年では8割以上の子どもたち、高学年では9割以上の子どもたちが「授業がわかりやすい」と回答しました。保護者の皆様からも高学年同様に回答をいただきました。

昨年度より少しずつ伸びていますが、残り約1割の子どもたちの気持ちをしっかり受けとめ、今後も授業改善に努めます。

「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがある」「授業でわからないことは先生に質問しやすい」の設問では、今年度も課題がみえたので、以下に整理して改善策をまとめます。

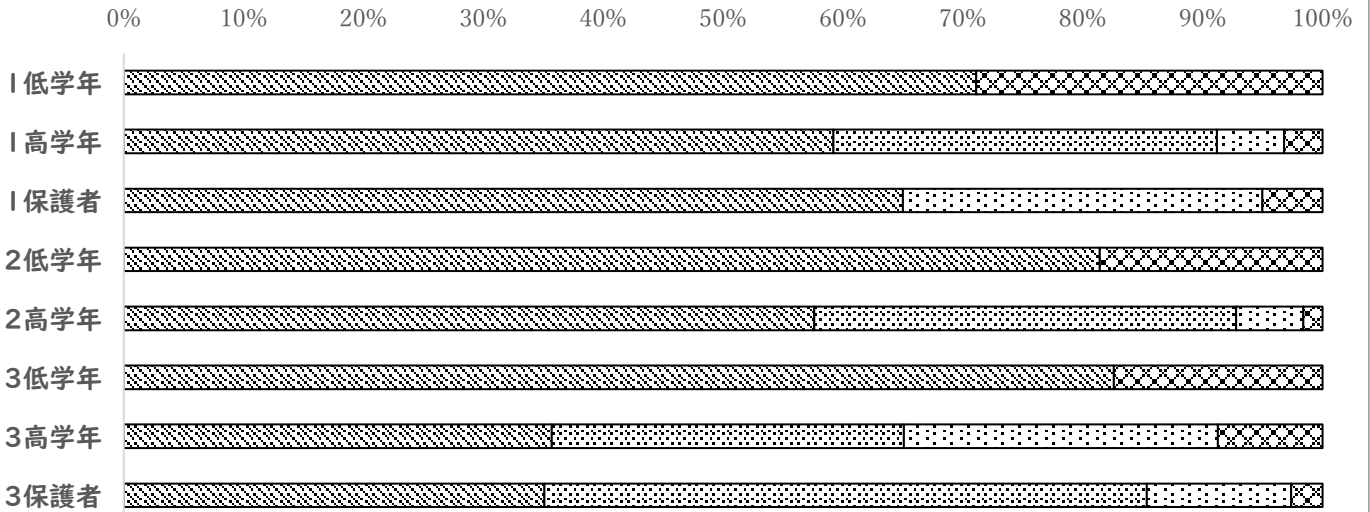
- ☆重点取組である「あたたかい聴き方」「やさしい話し方」のさらなる充実を図ります。
- ☆今後も『教室はまちがうところだ!』（まちがってもいい）の姿勢で授業をすすめます。
- ☆言語力の向上に努めます。

**【具体には】**

- ① 授業の中で発表する機会をさらに増やします。
- ② iPadの活用や様々な表現方法を教えます。
- ③ 休み時間や放課後でも質問できる環境をつくれます。

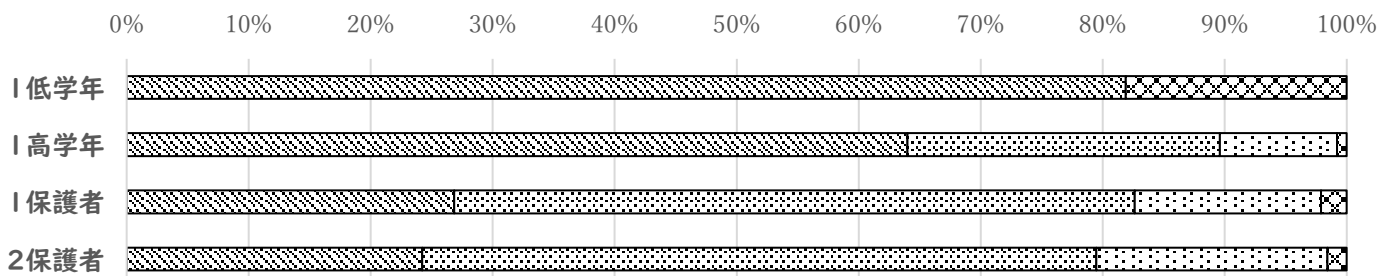
どの教科の授業においても自分の意見を発表する場面や話し合う場面を増やして、対話的な学びの中から、深い学びへつながるよう努めます。

- 1 (低) 先生はわたしたちの意見や話を聞いてくれる。
- 1 (高) 先生はわたしたちの意見や話を聞いてくれる。
- 1 (保) 教職員は、子どものことを理解している。
- 2 (低) 先生は、自分ががんばったことをわかってくれる。
- 2 (高) 先生は、自分が努力したことを認めてくれる。
- 3 (低) こまったことなどを話せる先生がいる。
- 3 (高) いろいろなことを相談できる先生がいる。
- 3 (保) 子どものことについて、気軽に教職員に相談できる。

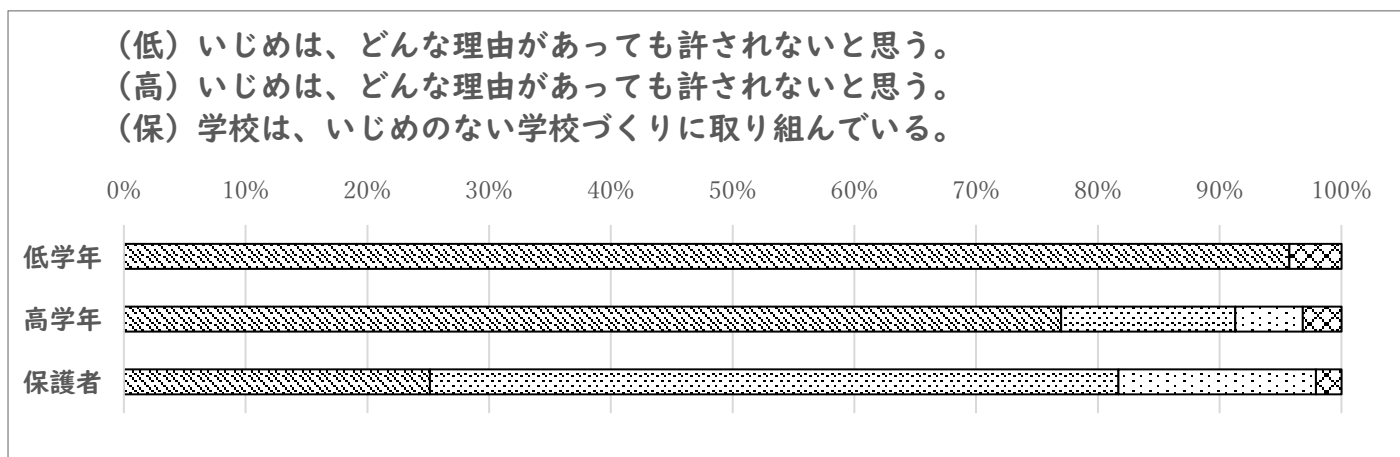


9割以上の子どもたちが「先生はわたしたちの意見や話を聞いてくれる」と回答しています。また8割以上の低学年、9割以上の高学年が「先生はがんばったこと、努力したことを認めてくれる」と回答しています。今後も一人ひとりの子どもたちに丁寧な対応を継続していきます。課題も見えました。高学年の子どもたちが気軽に相談できるよう、担任以外の教職員も積極的に子どもたちと関わり、子どもに寄り添える先生チームを築きます。

- 1 (低) 「思いやり」について教えてもらっている。
- 1 (高) 「思いやり」について教えてもらっている。
- 1 (保) 学校は、一人ひとりを大切にして、思いやりの心を育てている。  
(重点取組み)
- 2 (保) 重点取組みである多様性教育を理解している。



子どもたちの中に「思いやり」が浸透してきました。「めざす子ども像」の1番目である『思いやりの心を持つ子』の育成に努めます。保護者の皆様にも理解いただけるようになりました。今後も教育活動の充実を図るとともに、取組みを発信していきたいと考えます。



9割以上の子どもたちから「いじめは許されない」の回答がありました。保護者の皆様からは8割以上（昨年度比較で10%アップ）の肯定的回答をいただきました。

今年度はいじめ予防授業を3回実施し、学校風土調査も2回行いました。子どもたちは「シンキングエラー」や「アンバランスパワー」の言葉の意味を少しずつ理解し始めています。また、以下のようなワードで学習を重ねました。

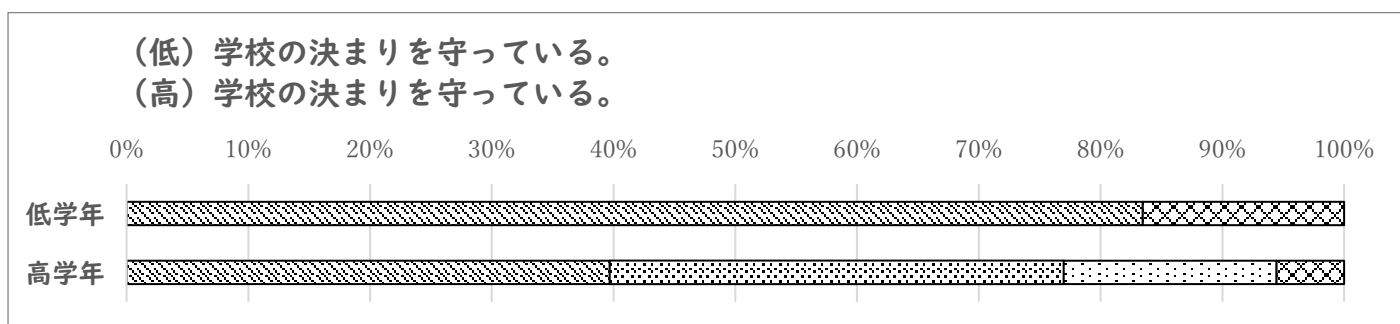
【いじめにあったときの「や・は・た」行動】

- ㊦ やめてという
- ㊧ その場を離れる
- ㊨ 周りの大人に助けを求める

【HEROになろう！ の話し合い】

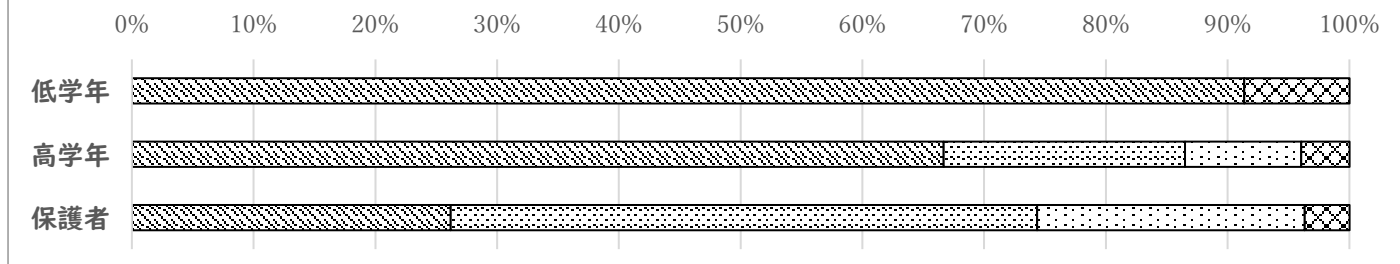
- H**elp 友だちを助ける勇気、助けを求める勇気を持ちます。
- E**mpathy 相手の気持ちを考えます。
- R**espect どんな相手も大切にします。
- O**pen-mind 心を開き、みんなを受け入れます。

教師団においては、子どもたちの変化や行動にアンテナを高くして「気づくこと」や、「いじめを認知した際の対応を迅速かつ丁寧にすること」また、子どもの気持ちに寄り添い、担任一人だけでなく、関係教職員チームで検討し対応にあたってきました。今後も100%の肯定回答をめざして取組みを継続していきます。



今年度は「吹六っ子だより」を発行し、生徒指導に係る学校の取組みや、子どもたちの中で起こっている課題について発信しました。来年度も継続して発行するとともに、ご家庭と協力して、子どもたちの健やかな成長を育みたいと考えます。また、すべての子どもたちにルールの大切さが理解できるよう指導に努めます。

(低) 学校の宿題をきちんとしている。  
 (高) 学校の宿題をきちんとしている。  
 (保) 子どもは家庭学習(宿題・自主学習・読書)が身についている。

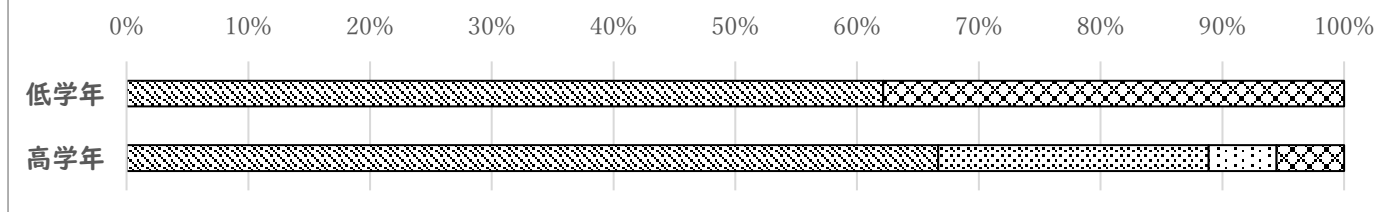


低学年では9割以上、高学年では8割以上の子どもたちが宿題をしていると回答している中、保護者の皆様からは家庭学習が身につけているのは7割強であるという回答でした。私たち教師団も保護者の皆様同様、7割くらいであろうと把握しております。

昨年度の繰り返しになりますが、宿題や読書を含む家庭学習の大切さは、子ども自身が実感するのはまだ難しいのでしょうか。しかし大人は、小学校の頃から家庭学習の習慣をつけていくことで、中学校や社会に出た際に必ず役に立つことを知っています。

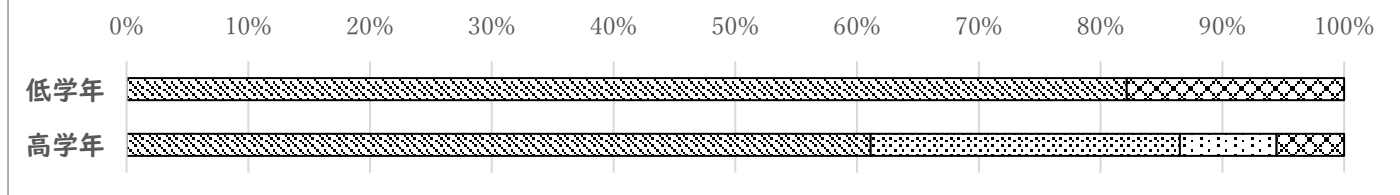
どうぞ、ご家庭におかれましても、子どもたちが前向きになれる助言をお願いします。

(低) 図書室に行きたいと思う。  
 (高) 図書室は、使いやすい。

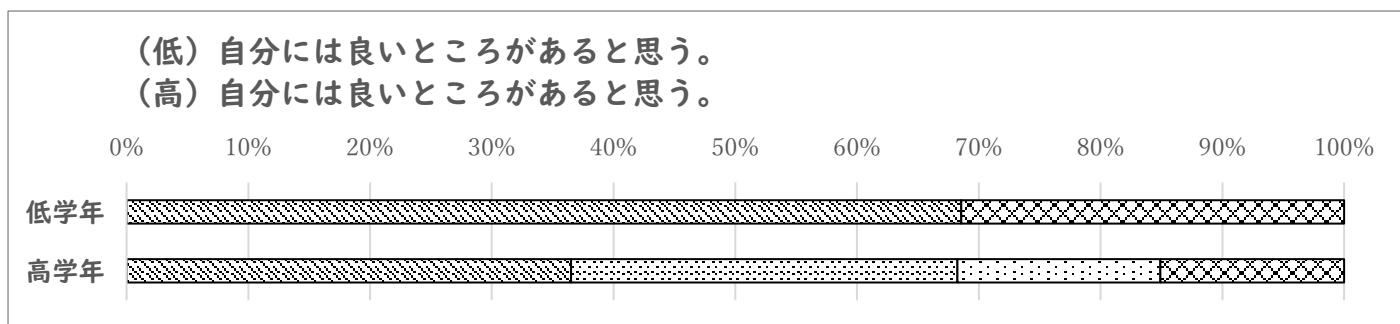


今年度、低学年の設問を「使いやすい」から「行きたい」に変更しました。来年度は高学年も「行きたい」にそろえようと考えています。図書室の活用方法はいろいろありますが、本校の課題は、まず、子どもたちがすすんで「活字を読む」「読書をする」ことにあります。休み時間や放課後に「行きたい」と思える図書室をめざして、環境設備を整えるよう、読書支援員との検討を重ねます。

(低) 給食はおいしく、楽しみにしている。  
 (高) 給食はおいしく、楽しみにしている。



9割前後の子どもたちが、給食を楽しみにしていると回答がありました。昨年度より残飯も減ってきました。給食指導のみにせず、食育の学び・取組みを継続していきます。



今年度はこの設問回答に大きな課題を感じました。

低学年高学年ともに69%の子どもたちが「自分には良いところがある」と感じていて、そう感じていない「自己肯定感」「自尊感情」の低い子どもたちが3割以上もいます。

8割～9割の子どもたちが「先生は、がんばったことや努力したことを認めてくれる」と回答している中で、この回答は考えさせられます。

今年度、本校では「自己有用感」を持たせることも意識して取り組んできました。コロナ禍であり、直接的には高学年が低学年から「すごいなあ」「さすが」という言葉が発せられる取組みには限りがありました。折に触れお互いを認め合い、リスペクトできる活動には力を入れましたが、まだまだ改善の余地があるということです。

子どもたちにとって、自分の「良い」ところとは、あるいは「良い」とは狭い範囲で考えているのかもしれない。

課題が明確になったことで、今後の教育活動の重きをおくところがはっきりとしました。

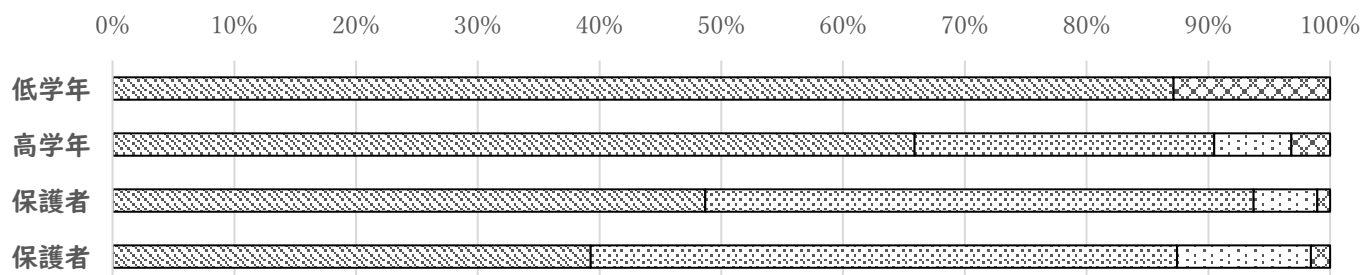
子どもたちは一人ひとり持ち味があり、みんなちがってみんないいのです。子どもが自分自身を認め、ポジティブに捉えられるよう、学校ではより一層、「認める」「認め合う」活動に力を入れることと「自信をつける」教育活動の充実を図ります。

#### 【具体には】

- ① 「新しい生活様式」で学校行事を再開いたします。
- ② セサミストリートカリキュラム（セサミの授業）の時間数を増やします。
- ③ 子どもたちが、おうちの方から「ほめてもらう」ことが、たくさんあるように今後も教育活動の取組みを発信していきます。

「自己肯定感」や「自尊感情」を高めるには、ご家庭と学校がともに協力し合い、連携しあって、達成できるものだと考えております。子どもたち一人ひとりが、自分には「こんないいところがある」「こんな素敵などころがある」と自信をもって言える子どもたちを、ともに育てていきたいと思います。

- (低) 地震や火災などが起きたとき、どうしたらよいか教えてもらっている。
- (高) 地震や火災などが起きたとき、どうしたらよいか教えてもらっている。
- (保) 台風・地震、その他の緊急時の対応について知っている。
- (保) 学校は、安心安全な学校生活を送れるよう、危機管理に努めている。



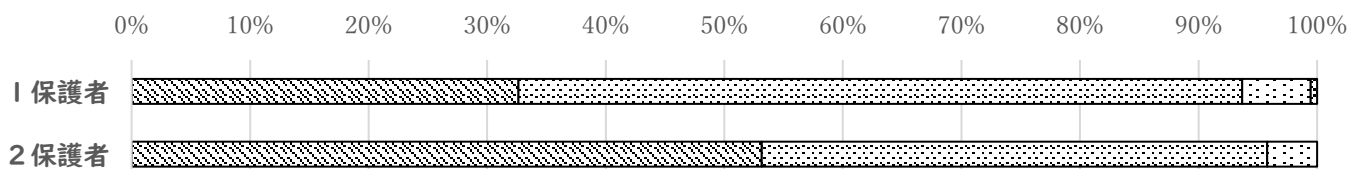
今年度は休業での始まりとなり、未曾有の災害ではありませんが、パンデミックという学校にとっては大きなピンチを迎えました。改めて「学習保障」「心の育成」を考えた1年でした。

感染拡大防止対策として、万が一に備え、来校者名簿の充実を図りました。保護者の皆様、地域の皆様のご協力感谢您いたします。また、危機管理対策としても高評価のお言葉をたくさんの方から頂戴しました。ありがとうございます。今後も子どもたちの安全確保のため、正門の施錠、来校者名簿は継続して行います。ご協力くださいますようお願いいたします。

今年度も緊急時（災害・不審者侵入等）に備え、全教員がトランシーバーを携帯して対応できる手立てをとりました。来年度は非常勤職員への携帯も視野に入れ、万全の体制をとりたいと考えています。

何よりも最優先されるのが、安全であると考えていますが、未曾有の災害が起きる可能性があることを、大人も子どもも充分理解する必要があると考えます。いつ・どこで・何が起こっても、まず自分の命は自分で守れる力が不可欠です。学校では避難訓練を中心に、いざというときにとるべき行動を、継続して育み、子どもたちが安心して学校生活を送れるよう努めてまいります。

- 1 (保) 学校は、保護者・地域の方々と連携・協力している。
- 2 (保) 学校は子どもの様子や教育活動について情報提供を行っている。



皆様とともに協働することができなかった今年度ですが、教職員・子ども・保護者（地域）を含めた「チーム吹六」を念頭に置いて教育活動に取り組んできましたので、保護者の皆様からは9割以上の高評価をいただいたことは、大きな励みになります。

今後も学校だより、学年だより、校長ブログ「吹六ぎゃらりい」の充実を図り、皆様との連携を大切にしていこう努めます。